

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902807
法人名	株式会社 小林留次郎商店
事業所名	グループホーム チェリーホーム衣笠
訪問調査日	平成20年8月29日
評価確定日	平成20年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1471902807
法人名	株式会社 小林留次郎商店
事業所名	グループホーム チェリーホーム衣笠
所在地	238-0204 横須賀市衣笠栄町3-21-2 (電話) 046-850-6905

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年9月30日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	13 人	常勤	3 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 5.7 人

(2) 建物概要

建物構造	S造ALC造り		
	2階建て	0	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三輪医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

元設計事務所の改装も開所して間もなく3年、介護は個人経営のオーナーがご自分の夢とポリシーをもって手作りで運営し、血の通った温かいホームも独自の生活基盤が醸成されている。チェリーホームグループとしてはこのホームの他、計3箇所のグループホームを運営している。(他は馬堀と油壺) ロケーションはJR衣笠駅から徒歩7分程度の国道沿いで、三浦高校が道の反対側にある都市型の地域にある。事務所などが多く、町内会も無くなり、近所付き合いは個別にならざるを得ないが独自運営推進会議の開催により民生委員や地域活動をされている地域代表との連携により、広域での交流が期待出来る状況となっている。2階建てで1Fに3名、2Fに5名、計8名に1ユニットのホームである。1Fにあるリビング・ダイニングは南側のサンルームも含めて12畳位の広さで、こじんまりとした家庭的な雰囲気である。裏には小さな庭があり、夕涼みなどにも利用している。職員は開所当初からの人が残っており、入居者とも明るく、管理者の包容力もあり和気藹々な雰囲気が定着している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度はご家族との情報の共有に重点を置き取り組んだ。従来でも毎月、個別にお便りに写真を添えて状況をお知らせし、充分、連携を取って来たが、具体的な面での情報をお知らせ出来ていたかを考慮し、個人別の介護日誌のうち特徴的な日、お知らせしたい日の日誌を抜粋コピーして月2~7枚程度を添付してお届けすることとした。職員のレベル差、文章の巧拙、ストレートな表現などご了解頂いた上で生の生活を知って頂き、現状を知って頂くことでケアの見直しを含め認識し、ご家族と一緒にケアに繋げるよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価についてはカンファレンスで職員の意見を吸い上げたうえで管理者が作成した。評価結果が出たら職員に開示し、一緒に検討し、改善策について話し合うことになっている。職員等は利用者に対する対応がマンネリ化していないか、また理念を達成するために、確実に進行しているかを自己評価や外部評価で確認し取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は今年より横須賀方式のブロック会議(2回/年)と単独会議(4回/年)で行うこととなった。単独会議では既に2回実施している。1回目開催に当たっては横須賀市から民生委員の方をご紹介頂き、町内会が無くなったので地域活動をされている方に地域代表としてご参加頂き、ご家族代表とホーム関係者と云う構成で進めている。今まではメンバーの顔合わせ、ホームの見学、ご家族のお話などが中心で、話しは盛り上がり、2時間の予定が3時間以上に延びるケースがあった。町内会が無いのでテーマについては検討して行きたいと考えている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は近くの方は頻繁に来訪してくれるし、縁の遠い親族の方は来訪の頻度はやや少ないものの信頼してもらっている。利用者の状況に関しては前述のように毎月のお便りを充実し詳細の状況をお知らせしている。これにより医療連携加算についてもご理解頂き、ADLに応じた必要な話し合い充分理解して頂いている。ご家族をまとめておいで頂くのは年1回、9月の敬老会とし、家族会とは特に呼ばないが懇親の場としている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者は地元の方が多く、住んでいた町は懐かしいと考えているので、車での遠出の折にはご自宅の付近を通るようにし、車窓から見て頂き風景を楽しんで頂くと共に、たまに古い知人に逢って頂いたりしている。アパートに住んでいた利用者の大家さんが娘さんと一緒にホームに来てくれて、娘さんがお茶を点でてくれたりしている。職員のお子さん(小学生)が友達と一緒に遊びに来て、お年寄りと一緒に寝たりして馴染んでくれ、利用者さんも喜んでる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	横須賀市内に長く在住する利用者の皆様が入所前より交流があったご近所・友人の皆様との関わりを大切に継続(地域密着)できるよう支援し「ゆっくり・楽しく・いっしょに」を目指し、暮らしの喜びと自信をもって生活できるよう援助している。又人としての尊厳を大切に快適な生活が営まれるよう支援している。	○	利用者さんの身体のコンディションを考慮しつつ、努めてドライブ等で毎週自宅・近所を訪問し旧交を温めて頂く支援を継続して行きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域に密着した理念に基づき日々対応し取り組んでいる。入所者が入所前の友達と疎遠にならぬよう職員はお友達確保のため真っ向から真剣に日常的に取り組んでいる。		継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内とのお付き合いの基本は、町内のお祭り・納涼大会等の行事への積極的な参加と考え、職員の勤務を調整し、複数の職員を派遣する等地域に支援・貢献している。今後は町内の役員も積極的に引き受け、近隣の町内との友好関係を強化したい。		継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員等は利用者に対する対応がマンネリ化していないか、また理念を達成するために確実に進行しているかについて、自己評価及び外部評価を活用して確認するよう取り組んでいる。		継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年は委員の皆様は遠慮がちな発言であったが今年度は施設の内容を理解していただき和気藹々の内にも力強い助言を頂いている。	○	横須賀市はブロック別運営推進会議もあるので、町内の皆様にホームの特徴をアピールする必要があるとの委員の助言を取り入れ、まず町内会・老人会を通じて宣伝などを検討して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎日の業務に疑問が発生するたび、行政の担当者に連絡を取りご指導を頂いている。		今後、より行政に指導して頂き、課題等の解決に邁進して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎日の生活に変化があつた場合はその都度通知している。又一月に一回写真及び近況を文書で通知している。なお市内より入所されている方は自宅・近所に訪問した際に家族に近況報告している。個人別の介護日誌のうち特徴的な日、お知らせしたい日の日誌を抜粋コピーして月2～7枚程度を添付してお届けすることとした。現状を知って頂くことでケアの見直しを含め認識し、ご家族と一緒にケアに繋げるよう努めている。		継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、ご家族とは電話で忌憚のない意見を交換しておりその代表者は運営推進委員会の委員でもあり、家族の意見を伝えられるよう配慮している。施設内に投票箱を準備しており、自由に意見を述べられるよう配慮している。		継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を重要視し同じ法人内でも移動は極力避けている。又職場の良好な環境の確保に最善を尽くしており今後も利用者へのダメージを最小限に止めている。サービスの質の確保の根本は、利用者との馴染みの確保であるが、更に利用者との馴染みと職員間の融和・信頼関係を確保することに最善を尽くしたい。		継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての研修計画があり実践しているが、今後は更に内容の充実発展に努めたい。外部研修に積極的に参加させ、併せて施設内の伝達研修につなげ介護のレベルアップに努めて行く。		継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の研修会及び同業者の施設を見学・研修し、サービスの向上に研鑽している。介護支援専門員は自発的に県・市の研修会に参加し努力研鑽している。		継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に施設への入所を短時間でも体験していただき、表情や笑顔を確認してからサービスを少しずつ開始している。又職員間の連携を密にし本人の情報を共有している。施設に馴染むまでは様子を見ながらサービスを実施している。職員やすでに入所中の友達とも馴染むまではあせらずゆっくり時間を掛け本人の様子をそれとなく遠くより見守り支援のチャンスを待って対応している。		継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の中には現在自宅で介護を継続中の職員もいて入所中のお年寄りの現況は痛いほど理解している。もちろん入居者とは親族同様の信頼関係を確保し喜怒哀楽を共にしている。孤独の状況に落ちがちな利用者を支えながら、自立に向け職員は寝食を共にし切磋琢磨している。		継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度の認知症の利用者さんからの「思いや・意向」の把握は大変困難で苦慮しているが、家族等からの情報で把握するようにしている。親族からの情報や入所前の生活を考慮し、又職員が本人の視点に立って「思い・意向」の把握に取り組んでいる。		継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためにどんな支援が必要か、家族の意見を参考に、また毎日の様子・過去の生活を参考に検討し計画を作成するよう努力している。ドライブ等で永く生活した自宅・町内を訪れた際に知人よりのお話も重要な情報でありプランの参考にしている。		継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は現場で実践的に対応できるよう作成しているが期間にとらわれず、変化に応じて臨機に計画の見直し・変更等に対応するよう努力している。家族等よりの要望が無くても職員は常に新鮮な目で見守る必要があり今後も努力研鑽する。		継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の要望により一時帰宅等の要請があれば送迎を含み臨機応変に対応している。本人より突然自宅のダンス内の物品が気に入り帰宅願望が発生した場合等は家族と相談し臨機応変に対応している。又帰宅したけれど馴染みの職員がいる施設に早く帰りたい、と言われるほど良好な関係を確保・維持している。		継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を最優先させている。介護保険制度の医療連携制度を活用し利用者さんは継続的に医療が受けられるよう支援している。なお、医療連携については本人・家族の承諾を得ている。		継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在終末期に該当する方は在籍しないが、重度の利用者さんに対してはかかりつけ医の指導の下で定期往診を始め適切に対応している。今後も家族と接点を設け介護等の対応方針について話し合い共有していきたい。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族、かかりつけ医等と繰り返し話し合い対応して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアマネジメントでは利用者・家族のプライバシーを聞き取るためにホームとしては厳重な守秘義務を課している。又職員もこの趣旨を理解している。サービス担当者会議の席ではプライバシーに関わる討議があるが、会議の前後に司会者より厳しくプライバシーの保護を要請し、職員は納得・理解している。		継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立支援を図るため利用者の「できそうなこと」「やりたいこと」を極力手を出さず見守りを重視している。散歩・ドライブは希望があれば利用者の健康と安全が確保されれば実践するよう配慮している。		継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外出以外では基本的には一日3回ホームでの食事の準備をするため元気な利用者さんには食事の支度を手伝っていただき。又後片付けも手伝っていただくようにしている。利用者と職員が同じ食事を一緒に楽しみながら、食べ方の混乱や・食べこぼし等に対する支援をさりげなく実施している。		継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者はおおむね希望通り実施している。浴槽は一般家庭と同じお風呂でゆっくり楽しく実施している。		継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの利用者さんの特技・趣味を把握し支援することで生きがいにつながるよう支援している。カラオケ・洗濯干し・洗濯物たたみ・漬物作り・生け花・食器洗い・折り紙・詩吟・民謡等それぞれのリーダーになっていただき毎日の生活を活性化するよう配慮している。		継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在単独で外出できる元気な利用者さんは在籍していない。外出の際は職員が同行し支援している。ホームとして単独での外出に対する対応は出来ている。		継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な暮らしを支え心理的な圧力をもたらさないよう、日中は玄関をはじめ出入できる箇所はすべて鍵をかけない配慮を創設時より実施しているが玄関前は主要道路で交通量が多いため家族よりの要望もあり状況により施錠することがある。なお施錠については家族より承諾を頂いている。		現在一人で飛び出せるような元気な利用者さんは残念なことに在籍しないが、今後も鍵をかけない見守り強化の介護を継続して行きたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年度各種計画を作成し、消防署への通報訓練・職員の緊急呼集訓練及び火災訓練(昼間想定・夜間想定)を実施し緊急時に備え訓練を重ねると共に成果を上げている。		継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の過不足や偏りの起こらないよう日常生活・毎日の食事で見守りを重視している。「低栄養状態になつていないか」の早見表で一人ひとりの状態を把握しバランスを確保するよう努力している。		継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を近所の住民よりたびたび差し入れを受け明るく居心地の良い環境を確保している。職員は利用者の要望を尊重し利用者と共に居室の配置変えを行ったり、又食堂の配置を変更し環境の整理・整頓を実施し心地よい環境を目指して常に工夫し努力している。		継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望者には本人の使い慣れた家具を搬入して頂き落ち着いた雰囲気確保している。利用者それぞれの好みに応じて居室内の環境を作成・維持している。		継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム チェリーホーム衣笠
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 横須賀市 衣笠栄町3-21-2
記入者名 (管理者)	管理者 斉藤 径子
記入日	平成 20 年 7 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	利用者さんの身体のコンディションを考慮しドライブを兼ねて努めて隔週・気象等を考慮しながら自宅のある町内を訪問し旧交を温めている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念に基づき日々対応し取り組んでいる。なお、入所者は入所前の友達より疎遠になりがちですが職員はお友達確保のため真っ向から真剣に日常的に取り組んでいる。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	今後も機会あるごとに、特に町内の皆様に話しかけ理念の浸透に切磋琢磨している
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	今後も町内活動には積極的に参加し友好関係を保持・継続したい。又お年寄りの散歩中には近所の皆様より声を掛けていただいたり、又職員に励ましの言葉を賜り感謝している。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	現在は町内の行事には勤めて参加しているが、今後は町内の役員も積極的に受け入れ町内との友好関係を強化したい。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護保険関係に詳しい管理者・ケアマネは町内の虚弱なお年寄りを抱える家族より時々介護相談を気軽に受け入れ取り組んでいる。		町内の皆様への対応は勤務の関係ではほとんど時間外でお願い・対応しておりますが、将来は勤務時間内で対応したい。
---	----------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------	--	--------------------------------------------------------

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員等は利用者に対する対応がマンネリ化していないか、また理念を達成するために確実に進行しているかを自己評価及び外部評価を確認し取り組んでいる。	○	前年度指摘事項については謙虚に反省し確実に改善している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は委員の皆様は遠慮がちな発言でしたが今年度は施設の内容をご理解していただき和気藹々の内にも力強い助言を頂し感謝している。特に委員より市内の高齢者を入居のために宣伝等ご尽力を賜り職員一同感謝している。	○	施設の特徴をもっと町内の皆様にアピールする必要があるとの委員の助言に対し、まず町内会・老人会を通じて働きかけていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	業務に疑問が発生するたび、行政の担当者にご迷惑お掛けし迅速なご指導を仰ぎ感謝している。特に行政の担当者は意欲的且つ熱心で敬服している。		今後も自助努力は当然ですが行政の指導を賜り施設の発展のため邁進する。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在入居者ではこの制度に該当する人が居られます。この事業に関わる職員としては制度の熟知に切磋琢磨している。		管理者・介護支援専門員により部内教育を実施しておりますが来年度は外部の研修に職員を参加させ意識の高揚を図りたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止については、運営者・管理者により常に厳しく徹底しておりますが職員もその重要性を認識し介護に対応している。		外部の研修に管理者・ケアマネは参加しているが介護職員については来年度順次参加させ意識の高揚を図りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項では現在のところ粛々と進んでおり特に問題はない。なお平成17年度にこの事業を開始して以来円滑に事業を展開している。		契約に関しては努めて複数の親族等に参加していただき、入念に説明し努めて契約書を持ち帰っていただき、納得した上で日を改めて締結するように配慮している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在利用者さんは重度の認知症の方が多く意見を徴集することは困難な状況ですが職員等は対応に努力している。		施設内に無記名の投票箱を備え付けておりますが入居者でこの制度を活用できる方は在籍しておらず家族等の皆様に活用をお願いしている。なお、行政等にも苦情受付の窓口があることを徹底している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日の生活に変化があった場合はその都度通知している。又一月に一回写真及び現況を文書で通知し家族等より好評を得ている	○	市内・横須賀より入所されている方は自宅・近所にドライブを兼ね訪問した際に家族等に近況報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族間は電話で忌憚のない意見を交換しておりその代表者は運営推進委員会の委員でもあり比較的家族の意見を施設に伝えられるよう配慮している。	○	施設内に投票箱を準備してあり自由に意見を述べられるよう配慮してある。又家族に運営・介護等に関する率直な意見を発表していただけるよう常に配慮している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の運営・活性化のため毎月職員会議を開催し職員の意見を尊重し「業務改善意見」を奨励し反映している。		介護に対する意欲の増進及び業務の反映・活性化に役立っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況(病弱等)により勤務体制を調整している。		状況により管理者と職員で話し合い勤務体制を厚くしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を重要視し同じ法人内の移動は極力避けている。又職場の良好な環境の確保に最善を尽くしており今後も利用者へのダメージを最小限にするよう配慮している。	○	サービスの質の確保の根本は、利用者との馴染みの確保であり、更に利用者との馴染み・信頼関係を確保することに最善を尽くしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

5. 人材の育成と支援

○職員を育てる取り組み				管理者、ケアマネは参加する機会を確保して、ケアマネ、介護士
-------------	--	--	--	-------------------------------

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設としての研修計画があり実践しておりますが今後は更に内容の充実発展に努めたい。	○	管理者・ケアマネは参加する機会を確保しているが、介護職員については来年度は外部研修に積極的に参加させ、合わせて施設内の普及研修につなげ介護のレベルアップに努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の研修会及び同業者の施設を見学・研修しサービスの向上に研鑽している。		管理者・介護支援専門員は自発的に県・市の研修会に参加し努力研鑽している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩み・ストレス解消のために法人内のカウンセラーを活用している。又新年会・暑気払い及び忘年会の外にカラオケ大会等でストレスを解消し成果を上げている。		今後は法人内の施設が勤務の調整を図り一泊旅行を計画し職員の慰安を図りたい。なお、職員は休日を利用し運営者・管理者を含みカラオケ等で親睦を図りストレスを発散している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は利用者との懇談及び家族との電話での対応で地域密着型での職員の勤務状況を認識すると共に、平素の勤務状況を把握している。又職員は理念に基づき自由に働けるよう配慮している。	○	職員はそれぞれの特技(歌・絵・生け花・ドライブ等)を活かし利用者の生活の継続性を支えることに貢献し、又体制をつくっている。

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人より詳細に亘りお話を承り、担当のケアマネよりも細部状況の説明を受けている。特に本人が一番困っていること又不安に思っていることを概ね把握している。	○	入所前に施設に体験入所していただきゆっくり時間を掛け、すでに入所している皆さんの状況も合わせて理解していただき友好的な関係を築いてから入所していただくよう配慮している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困っていること、不安に思っていることをいつでも相談を受け入れられる体制を確保している。	○	家族の不安を払拭することに時間を掛けている。特に利用者が私どもの施設に適合するか慎重に話し合っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者家族が現在困窮していることを把握し、その解決に向け速やかに対応している。	○	私たちの施設の長所・短所を率直に説明しご理解を仰ぎ、状況により他の施設を紹介し、抱え込まないよう配慮している。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設に馴染むまではサービスは様子を見る。職員やすでに入所中の友達とも馴染むまではあせらずゆっくり時間を掛け本人の様子をそれとなく遠くより見守り支援のチャンスを待って対応している。	○	事前に施設への入所を短時間でも体験していただき、施設はある程度個性を把握し表情や笑顔を確認してから入所して頂きサービスを少しずつ開始している。又職員間の連携を密にし本人の情報を共有している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の中には自宅での介護経験者もあり入所中のお年寄りの現況は痛いほど理解している。もちろん入居者とは親族同様の信頼関係を確保し喜怒哀楽を共にしている。		孤独の状況に落ちがちな利用者を支えながら、自立に向け職員は侵食を共にし切磋琢磨している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	現在は家族からはなれ、施設に全面的にゆだねたような関係になっている利用者も散見される。家族には積極的な支援を呼びかけ、結果を期待している。	○	現在は職員が全面的に抱え込んでいる現況を緩和する必要がある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	おおむねの入居者の家族の面会の回数等は良好と思慮されます。		利用者と家族との関係は現在のところ良好であり今後も持続させるため職員は一丸となり努力している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の理念でもあり、馴染みの町内、友人との関係を大切に支援し成果の兆候が現れている。	○	住み慣れた町内・知人等より疎遠にならないようドライブ等を兼ね積極的に接点を目指し今後も継続して支援する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロアで過ごされる場合、体の不自由な方の行動が危ないと感じたときは介護職員に急報して頂けるような優しい雰囲気を確保している。		職員の見守りにより現在のところ問題はないが油断すると孤立者が発生する恐れがあり、共に楽しく過ごせる体制の保持のため努力している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	たとえば介護老人福祉施設等へ移設になるような場合は懇切丁寧にグループホームでの生活状況を通知・共有して頂き、新しい施設での生活に支障が発生しないよう積極的に支援している。		移設した新しい老人ホーム等での生活がスムーズに行くよう支援すると共に退所後本人家族等が孤立等の問題に遭遇した場合は全面的に支援する。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度の認知症の利用者さんからの「思いや・意向」の把握は大変困難で苦慮しておりますが、家族等からの情報でかろうじて把握している。	○	親族からの情報や入所前の生活を考慮し、又職員が本人の視点に立って「思い・意向」の把握に取り組んでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーの問題もあり把握は困難であります但し本人や家族との信頼感の確保により把握している。	○	利用者個々の歴史や経過を把握することは重要なことであり把握に努力している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	目標指向型の介護に専念し自立に向け過剰介護にならないよう見守りを重視し細心の注意を傾注し対応している。	○	本人の出来ること出来ないこと、わかることわからないことを把握することは大切であり掌握するためベストを尽くしている。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためにどんな支援が必要か、家族の意見を参考に、また毎日の様子・過去の生活を参考に検討し計画を作成している。	○	ドライブ等で永く生活した自宅のある町内を訪れた際に知人よりのお話も重要な情報でありプランの参考にしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は現場で実践的に対応できるよう作成しておりますが期間にとらわれず、変化に応じて臨機に計画の見直し・変更等に対応している。	○	家族等よりの要望が無くても職員は常に新鮮な目で見守る必要があり努力研鑽している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日(一日3回)記入し情報を共有している。		本人の様子を克明に記録し職員は共有すると共に介護計画に反映させている。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族等の要望により一時帰宅等の要請があれば送迎を含み臨機に対応している。	○ 本人より突然自宅の物品等が気に入り帰宅願望が発生した場合は家族と相談し臨機に対応している。又帰宅したけれど馴染みの職員のいる施設に早く帰りたいと言われるほど良好な関係を確保・維持している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在単独での外出可能な方は在籍しておりませんが、将来を視野にいれ外出先での不慮の事故及び火災等を想定して、警察・消防と連携している。なお、中学校の体験実習を積極的に受け入れ本人及び教育関係者より感謝されている。	○ 火災・地震等を想定して警察・近所の皆さんに平素より状況を説明し依頼してある。なお各種ボランティアの増員・受け入れは今後の課題である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ他のサービスを必要とする方は在籍しておりませんが施設としてはいつでも対応できる体制は出来ている。	○ 施設だけで抱え込んでいないか常に現状を点検している。なお本人家族等より要望があれば直ちに対応できる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行政(地域包括支援センター)とは6ヶ月に一回会同を設けており施設として問題等があればいつでも行政(地域包括支援センター)より支援・協働をいただける体制は出来ている。	○ 利用者個々の権利擁護等に関する事項が発生した場合は行政(地域包括支援センター)と協働・支援を仰ぐ体制は確保している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を最優先させている。	○ 介護保険制度の医療連携制度を活用し利用者さんは継続的に医療が受けられるよう支援している。なお、医療連携については本人・家族の承諾を得ている。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在入居中の方は、専門医の受診はないものの、かかりつけ医と家族と相談し、必要に応じて受診もあるが、家族の意向を優先し対応している。	○ 家族の意見・希望を最優先に今後も個別支援を実施する。
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師(医療連携)により日常の健康管理や相談を実施している。その上で受診の必要があるか等の判断を行っている。		毎日の生活の中から個別の健康管理を実施している。又即応体制に迅速に対処出来る状況を確認している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院者が発生した場合は、家族・病院と協議し協働・連携している。	○	入院した際は努めて短期間に入院目的が達成するよう病院サイドと家族を含め話しあっている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在終末期に該当する方は在籍しないが、重度の利用者さんに対しては主治医の指導の下で定期往診を始め適切に対応している。	○	家族と接点を設け介護等の対応方針について話し合い共有している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在終末期の該当者は在籍しておりませんが、状況によりかかりつけ医・主治医と連携し対応する体制は確保している。	○	終末期の介護に備え、家族や医療関係者と連携を図りチームとして支援する体制は完備している。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	相手施設との協働でダメージの防止に最善を尽くしている。		相手先の要望にこたえたと共に事前に本人のサマリー・習慣・好み及び介護の工夫等を個人情報保護法に配慮しつつ通知し協力している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			共、ケア担当者会議の場では公然とプライバシーに関

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアマネジメントでは利用者・家族のプライバシーを聞き取るために施設としては厳重な守秘義務が課せている。又職員もこの趣旨を理解している。	○	サービス担当者会議の席では公然とフイハンナーに関わる会話が飛び交いますが、会議の前後に司会者より厳しくプライバシーの保護を強要し、職員は納得・理解している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は常に利用者が自分で決めたり希望を現したりすることを大切に、それらを促す取組みを日常的に実施している。		毎日の生活の中で意図的に選んでもらう場面を作っている。(入浴の順番・カラオケの選曲・テレビ番組の選曲・散歩先の選択等)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立支援を図るため利用者の「できそうなこと」「やりたいこと」を極力手を出さず見守りを重視している。		散歩・ドライブは希望があれば利用者の健康と安全を確認し実践するよう配慮している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ほぼ希望通り実践している		身だしなみについては、それぞれの好みどおりに、又理美容については希望通り(お店に行く・施設に職人に来てもらう)支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お皿の盛りつけ、配膳は職員と一緒に、後片付けも見守り、声かけをしながら個々に出来る事を見極め行っている。		利用者と職員が同じ食事を一緒に楽しみながら、食べ方の混乱や・食べこぼし等に対する支援・見守りをさりげなく実施している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	努めて希望に沿うよう配慮し実施している。現在喫煙者・飲酒希望者は在籍しないが、将来希望者が現れば対応できる。		喫煙については火災予防上場所の制約がありますが、現在は喫煙者は在籍しない。将来に向けての準備は出来ている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを出来る限り使用しないで済むように利用者の排泄パターンを把握しトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を実施している		個別の24時間体制の排泄記録を作成し管理している。今後も継続する。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者はおおむね希望通り実施している		立位のとれない方にも介助の方法を職員間で良く話し合い、重度の利用者さんも安全に入浴を楽しんでおられる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ほとんどの方は薬も使わずに安眠出来ている。日勤者、夜勤者間の申し送りをしっかりと行い、日中と夜間の連携をとっている。		一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない利用者さんには日中の活動に配慮している。なおどうしても眠れない夜は職員が話し相手をしたり飲み物を提供するなどし安心して眠りにつけるよう心がけている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの利用者さんの特技・趣味を把握し支援することで生きがいにつながるよう支援している。なお、高度の認知症で趣味等の活動が困難な方は会話ボランティア等で気晴らしをしている。		カラオケ・洗濯物たたみ・折り紙・ボール転がし等利用者にそれとなく誘導し、毎日の生活を活性化するよう配慮している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんは金銭管理が不自由で一部に補佐・支援をしている。		利用者さんによってはお金を所持していないと不安になったり、ご自身で買い物をするのが楽しみな方も居られる。所持金額等はご家族と相談し、ご自身で管理していただいている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在単独で外出できる元気な利用者さんは在籍していない。外出の際は職員が同行し支援している。		施設としては単独での外出に対する対応は出来ている。(警察・駅・病院・町内会・近隣等に依頼済み)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者よりの要望は少ないが施設の理念にもあり家族の住む町内及び馴染みの場所・友達には努めてドライブを兼ね実施している。		利用者の健康状態を検討し努めて行きたい場所には率先して支援している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書けない方が多数占めておりますがそれとなく誘い、毎年ご家族への年賀状は利用者さんに書いていただいている。なお、電話のダイヤルを支援すれば会話が出るので状況を判断し実施している。		それとなく会話で誘導し家族等に通話のチャンスを作り対応している。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	希望・要請があればいつでも対応できるよう体制が整っている。		個別の外出及び施設の計画で全員でドライブ・花見・食事会等を実施しておりますが、事前に連絡頂ければ訪問優先に対応する。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険制度下では身体拘束は原則禁止でありその趣旨を全職員は理解し遵守している。		施設においては介護保険制度を遵守し車椅子の安全ベルトの使用やベツト柵(4本)の使用等は行動を制限する拘束の範囲と考え、創設時より廃止し「事故防止のための拘束」ではなく「どのようにすれば拘束しないで安全を確保できるか」という視点で見守りの強化で質の高いサービス提供を目標に切磋琢磨している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な暮らしを支え心理的な圧力をもたらさないよう、日中は玄関の鍵をかけない配慮を創設時より実施しているが玄関前は階段があり、又外は主要道路で交通量が多いため家族よりの要望もあり状況により施錠することがある。なお施錠については家族より承諾を頂いている。		見守りの重視により、今後も鍵をかけない見守り強化の介護を継続する。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに最大限配慮し、さりげなく様子を常に見守っている。		利用者の状況(特徴)を把握しており、見守りの強化により確認しやすい位置で行動前の状況を察知し安全を確保している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬については現在の利用者さんは全員薬等の管理が出来ないので一応かぎの掛かる部屋に管理している。		女性の方で化粧品やヘアスプレー、または目薬等はご本人の管理能力を十分に熟知した上で、個人で管理していただいている。またその際ご家族よりご同意いただいている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止等行政の計画する各種研修には必ず職員を派遣し事故の未然防止に取り組んでいる。 (救命講習・防災教育・感染症対策)		行政の計画に参加した職員による普及教育を実施している。又介護福祉士(施設職員)により毎年レベルアップを図るよう努力している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年度の計画を作成し技術のレベルアップに努力している。		ほとんどの職員が普通救命講習を受けており応急手当の準備は出来ている。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年度各種計画を作成し緊急時に備え訓練を重ねると共に努力している。		毎年消防署への通報訓練・職員の緊急呼集訓練及び火災訓練(昼間想定・夜間想定)を実施し成果を上げている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	機会あるごとに家族に説明しおおむね了解を頂いている。		利用者の安全を確保し自由な抑圧の無い生活を確保する反面リスクが予測されます。この件で家族に了解を頂いている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の体調把握に常に専念している。又情報の共有と状況により医師・救急車の手配に結び付けている。		職員は些細なことでも神経を傾注対応している。一日二回(勤務交代時)の引継ぎの際は細部に亘り情報共有・交換をする等対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	市販の薬の解説の本によりある程度掌握している。なお状況により主治医又は薬剤師より解説を受けている。		服薬については利用者さん全員自己管理が不可能であり全面的に支援している。日常の変化・状況については細部に亘り看護師・医師に通報するよう努力をしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別に排泄の状況を把握し、状況によりそれぞれ対応している。		自然排便を促すため水分補給・繊維食品及び運動の追加等毎日の生活の中で継続的に対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は確実に口腔ケアを実施するようそれとなく促し、支援し成果を上げている。		歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい・入れ歯の消毒及び出血や炎症のチェック等利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう口腔の清潔を日常的にそれとなく支援している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の過不足や偏りの起こらないよう日常生活・毎日の食事で見守りを重視している。		利用者一人ひとりの食事・水分の一日の摂取量を把握しバランスを確保するよう努力している。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症は予防・早期発見・対応策等が重要でありマニュアルを準備し対応している。		マニュアルにより対応しているが、市内の同業者及び保健所よりその時期の情報を期待している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を短期間の必要量を仕入れ食中毒の防止に努めている。		衛生管理マニュアルがありその通り対応している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般家庭と同様に花や絵を飾り明るい雰囲気確保している。		玄関前の歩道は落ち葉やゴミが多く、玄関や駐車場周りの掃除の際、互いにお隣の歩道まで掃除し合い、綺麗な環境を維持している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をたびたび差し入れを受け明るく居心地の良い環境を確保している。		職員は利用者の要望を尊重し利用者と共に居室の配置変えを行ったり、又食堂の配置を変更し環境の整理・整頓を実施し心地よい環境を目指して常に工夫し努力している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニングにはサンルームとしてソファを設け、こぢんまりとした家庭的な空間を作っている。		自由に仲間・家族と使用できるよう常に配慮している
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望者には本人の使い慣れた家具を搬入して頂き落ち着いた雰囲気を確保している。		利用者それぞれの好みに応じて居室内の環境を作成・維持している。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各居室毎に空調設備を完備し自由に好みの温度調整が出来る体制が確保されている。</p>		<p>居室の暖冷房はそれぞれの利用者の自由ですが健康管理のため職員はそれとなく室温を見守っている。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行に不自由な方もトイレ・食堂等に自立で移動できるように手すりを完備し、成果を上げている。</p>		<p>職員の見守りに守られ、施設内を移動できるよう工夫している。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>職員の工夫、配慮により特に違和感はなく暮らしておられる。</p>		<p>入居者が残された力を自然に発揮していけるように毎日の暮らしの中にその仕掛けを作ることはケアの大事な基本であり職員は常に心している。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>日当たりの良いベランダ側の廊下は日光浴に最適な場所によく活用している。裏庭は大切な憩いの場所で、有意義に活用している。</p>		<p>裏庭ではひなたぼっこやお茶を飲んだり、土いじりを楽しんだり、室内では味わえない楽しみの場としても利用している。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1 職員の穏やかな態度：職員の穏やかなゆったりした態度は利用者の不安を除去し安定させる。穏やかな雰囲気作りと、一人一人に合った時間の過ごし方を考え、利用者の方々が心身ともにのびのびと暮らせるように、職員皆で努力しています。